

2023 年度 部局 FD 活動報告

現代システム科学域・現代システム科学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>・現代システム科学域・研究科の教務委員会において FD に関する議題を取り上げ、教務委員会全体として、学域・研究科の FD 活動を推進した。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2024 年 3 月 21 日	現シス学域 FD セミナー「FDC と PBL について」	94 名
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (*月*日) ~ について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
研究科教学アセスメント実施委員会	第 1 回 4 月 6 日 アセスメントポリシー策定、内規策定、内部質保証の方針確認。 第 2 回 4 月 27 日 アセスメントリストの策定 第 3 回 10 月 5 日 2022 年度後期のアンケート結果を共有し、改善すべき状況がないか検討した。	8 名
学域教務委員会	毎月 1 回の定例の委員会の中で、学域独自の FDC や PBL についての現状や課題を共有し、その都度必要事項について協議した。	9 名
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <p>・現代システム科学域 1 年次必修のオムニバス講義 4 科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」において、授業担当者によるピア授業参観を行い、「サステイナビリティ」という学域全体の教育理念について理解を深めた。</p> <p>・後期開講の学域共通科目「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」の 4 科目では、授業の最終回（第 15 回）において、各科目の担当者が対談形式で講義を行うことで、各学類や各教員の専門性のみにとらわれず、科目間のつながりやカリキュラム全体について意識するように促した。</p> <p>・大学院博士前期課程「現代システム科学特別演習 1」「現代システム科学特別演習 2」において、他の教</p>		

員が指導する大学院生のポスター発表を聞き、異なる専門分野の視点からコメントを行うことにより、自らの研究指導や講義を改善するための機会を提供した。

・本研究科に在籍中の大学院生に対して「大学院授業内容に関するアンケート」を実施し、その回答を第10回研究科教務委員会（2/29開催）において検討した上で当該分野・当該科目担当教員らへのフィードバックを行なうなど、大学院授業改善のための参考とした。（アンケート実施期間：2024年1月9日～2024年2月22日。）

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

全教員に GPC データを共有し、自身の成績評価について今後の参考とするとともに、評価基準についての意識改善を促した。

とりわけ、学域全体の必修科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」の4科目については、GPC の差が大きくなりすぎないように、学域教務委員会で情報を共有し、今後の評価のあり方について検討した。

研究科企画運営会議において、研究科が授業管理をする2022年度後期（府大人間社会システム研究科）、2023年度前期授業（府大、公立大現代システム科学研究科）のGPC一覧のうち、受講生15名以上の科目を重点的に、成績評価の分布の状況が担当教員に事情を確認する必要があるような特別な状況になっている授業はないか、点検を行った。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）

- ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数（学域：94、研究科：86）人
- ・所属内の専任教員の人数（学域：94、研究科：86）人

7. その他、追記事項